

第1回ふれあい自然観察会

コアジサシと浜辺の生きものに会いたい！

平田 稚江子（千葉市）

日 時：6月13日（土） 晴れ 干潮8：25

場 所：検見川の浜

参加者：11名（大人9名 子ども2名）

指導員：6名（盛一、田島、坂本、谷、島村、平田）、事務局（川北、伊藤）

当日、参加予定の方のキャンセルがあり11名という少ない参加者での実施となりました。お天気は上々、参加者のみなさんと早速浜へ向かいました。まず、砂浜で勢いよく茂っている植物を観察。ハマヒルガオは殆どが実になっていましたが、花が2輪残っていました。その他、コウボウムギ、コウボウシバ、ハマボウフウ、オカヒジキ、ツルナなどを見ることが出来ました。砂浜の植物は強い日差しや潮風など厳しい環境に適応して生きていることを実際の姿を見ながら確認しました。

干潟の生き物集めでは、子ども達が大はしゃぎで、参加者の皆さんもそれぞれ楽しそうに採取し、容器に分類していきました。イソガニ・イソギンチャク・アカクラゲ（お菓子のようない赤いボーダー柄できれいですが、毒性は強いので生きているものは絶対触らないで下さいと言われながら採取したアカクラゲを参加者に触ってもらいその感触を確かめました。）イボニシ、アサリ、ホヤ（食べられません）、ヤドカリ、エビなどなど、あっという間に沢山の生き物が集まりました。イソガニはお腹にたくさんの卵を抱えはちきれそうでした。そこで、カニの雌雄の見分け方を教わり、雌雄を比較して納得しました。気になったのはイソガニがずい分死んでいたことです。（下見の時にはなかったことなので）

強い日差しを逃れて海岸林に入りました。林の中ではシロダモ、タブノキ、マサキ、ハマヒサカキなどが植えられています。タブノキの実はアボカドに近いそうです。後で調べたらアボカドもクスノキ科でした。タブノキにアオスジアゲハの幼虫を発見。指で頭をつくと怒ってツノを出し強烈な臭いを放っていました。

コアジサシ保護区へ向かうと砂の上にツメタガイの卵塊砂茶碗が所々にあり、初めて見たという参加者は、「どう見てもゴムタイヤの切れ端だわ！」と驚いていました。

いよいよコアジサシの観察です。下見の時には2羽を確認しましたが、まだ営巣の様子もなく浜辺を歩きまわっていました。しかし、今日は既に抱卵しているとの情報があり期待が高まります。ロープの周辺にはカメラを構えている人たちもいました。スコープを覗くと、抱卵中の1羽がはっきりと見えました。肉眼でも分かりますが、コアジサシの体色と営巣地周辺の砂礫が同色で見分けがつけ難くなっているのに感心しました。その手前にもう1羽のコアジサシがじっと動かずに立っています。なんとシロチドリと向かい合っただけでにらめっこをしていました。5分以上そうして、負けたシロチドリがすずすずと移動していきました。その後、コアジサシは低空でキリッキリッと鳴きながら、カメラを構えている人たちに威嚇攻撃を繰り返していました。親鳥の子を守る必死さに心打たれました。また、海水に浸っている姿もあり、卵が熱くなり過ぎるのを防ぐため、気温が高くなると海の水でお腹を冷やすと聞き、その賢さに感心しました。たった1組のペアですが、何とか無事に孵化し、親子で元気に渡って、又来年戻って来てくれるように祈りました。